

群 教 ゼ	G07 - 05
	平 15 . 215 集

## 高校生による幼児期からの 環境学習 ～遊んで学ぼう！ゴミの分別～



**主 題** 高校家庭科におけるシチズンシップ教育の手法を導入した「環境醸成の態度」を培う指導の工夫  
～「高校生による幼児の環境学習プログラム」の開発と実践～

特別研修員 三木 礼子（群馬県立桐生高等学校）

### 研究の概要

「消費生活と環境」で環境醸成の態度を培うために、シチズンシップ教育の手法を導入した「高校生による幼児の環境学習プログラム」を開発した。地域での問題解決型学習「幼児のゴミ分別学習プログラム」への取組を通して地域における自己有効感が高まり、環境のために行動する市民と出会い、思いにふれることで環境醸成の価値認識や市民的自覚が促された。その結果、主体的に生活環境に働きかける環境醸成の態度が身に付いた。

キーワード【 家庭基礎 消費者教育 環境教育 保育 幼児教育 地域学習 】

誰かが何とかしてくれるから「自分は何ができるか」へ

### 1 「消費生活と環境」で培うべき態度

高等学校家庭科における「消費生活と環境」では、地域社会とのかかわりの中で家庭生活や自己の消費行動を考え、消費者問題や環境問題に対して主体的に課題解決に取組む実践的態度の育成をねらっている。換言すれば、自己の消費行動について、個人の利益追求の側面が強い環境適応の態度を、よりよい生活の創造のために社会的な影響を考え、主体的に生活環境に働きかける環境醸成の態度に高めることが求められる。つまり「誰かが何とかしてくれる」ではなく「自分は何ができるか」という主体的な態度の育成が肝要である。

### 2 「誰かが何とかしてくれる」と考える生徒たち

本校1年生に実態調査を行った結果、自己の消費行動の社会的な影響を意識している生徒は少なく、環境問題等への関心も高いと言えないことが分かった。多くの生徒は生活環境での困難に対し、自分の仕事やライフスタイルを変えて環境に適応させる「環境適応型」の消費者観を持っており、生活環境における

問題に対し「誰かが何とかしてくれるだろう」という主体性の乏しい態度が見られる<sup>(図1)</sup>。



図1 生徒の考える地域環境の問題への対処法

### 3 大切なのは「自分は何ができるか」

生徒には消費行動を社会的な視野で捉えさせ、消費者問題や環境問題に対して「自分は何ができるか」を考え、改善に向け主体的に取組む姿勢を身に付けさせたい。そのためには地域における自己有効感と地域の一員としての自覚とも言える市民的自覚を促すことが重要であり、地域での実践的学習を取り入れる等の指導の工夫が必要である。

### 研究のねらい

シチズンシップ教育の手法を導入した地域での問題解決型学習として、生徒が幼児にゴ

ミの分別を教える「高校生による幼児の環境学習プログラム」に取組ませたり、環境のために行動する市民と出会わせたりすることが、環境醸成の態度を培うのに有効であることを実践を通して明らかにする。

## 研究の見通し

- 1 シチズンシップ教育の手法を導入した「消費生活と環境」と「乳幼児の発達と保育・福祉」の複合題材「高校生による幼児の環境学習プログラム」を設定して、地域における問題解決型学習を行えば、学習内容への興味・関心が高まるであろう。
- 2 「高校生による幼児の環境学習プログラム」における「幼児のゴミ分別学習プログラム」の取組を通して、幼児、保護者、職員の行動変容を促すことができれば、生徒の地域における自己有効感が高まるであろう。
- 3 環境のために行動する市民の活動や思いを知れば、市民の役割に気づき、環境醸成の価値認識や市民的自覚が促されるであろう。

## 研究の内容と方法

- 1 環境醸成の態度とは  
本研究では「環境」を生活を営む上での周囲の様々な諸条件や事象と捉える。環境醸成の態度とは、地域社会とのかかわりの中で家庭生活や自己の消費行動を考え、消費者問題や環境問題の課題解決に主体的に取組む実践的態度である。環境醸成の態度を備えるには、生活環境への興味・関心や、地域における自己有効感、市民的自覚が必要だと考える。
- 2 なぜ「シチズンシップ教育」の手法か  
(1) 環境醸成の態度に欠かせない市民意識  
環境醸成の態度には、家庭生活や自己の生活行動の在り方を地域のつながりから判断できることが基本となる。つまり、自己を地域の一員として位置付ける社会的な視野を備えた「市民意識」をもつことが必要であり、そ

のためには、市民的自覚や、自分も地域に貢献できるという自己有効感が欠かせない。

- (2) 環境醸成の態度とシチズンシップ教育  
「シチズンシップ教育」とは、社会的・道徳的責任、コミュニティ関与、政治的能力の育成を目指す英国で開発された教育である。社会をよりよくする能力をもつ市民の育成をねらうこの教育の特徴は、地域とかかわりながら主体的に問題解決に取組ませることにある。現在、単なるサービスの利用者ではなく身近な活動を通して問題を読み取りとり、解決のために行動する市民の育成に役立っている（「平成13年度社会奉仕活動の指導・実施方法に関する調査研究」日本総合研究所）。

本研究ではこの手法を導入し、地域での問題解決型学習を行う。具体的には「消費生活と環境」と「乳幼児の発達と保育・福祉」の指導項目を複合した「高校生による幼児の環境学習プログラム」の開発と、環境のために行動する市民との出会いの設定である。

- 3 「高校生による幼児の環境学習プログラム」の開発  
(1) ねらい

地域での問題解決型学習「幼児のゴミ分別学習プログラム」への取組を通して、学習内容への興味・関心を高め、地域における自己有効感を高める。

- (2) 開発の視点

「青少年が主役となる機会を多様に作り出し、参加の過程を体験し、評価し反省し合う」というシチズンシップ教育の手法を導入して、「地域における責任の一翼を担わせる」という考えの基に生徒に幼児への環境学習を行わせる。その中で、地域生活の主体者的態度を養う。

- (3) 内容

生徒に、地域の幼児、保護者、職員の環境への意識や行動の変容を促すための学習プログラムを考案・実践させる。

まず生徒が、幼児との交流から環境に関わる問題を発見する。次に、問題を焦点化し、幼児のゴミの分別能力の獲得と保護者や職員への環境への意識の高揚に関わる課題を設定する。さらに、課題解決策として幼児にゴミの

分別を教える遊びを中心とした学習プログラムを立案し、第4段階で実践する。4回の訪問で、幼児のゴミの分別能力の獲得と、保護者・職員の環境への意識の高揚を目指す。最後に反省と評価を行う。

#### 4 研究の基本構想

題材を図2のように構成し、学習段階が進むにつれ、環境醸成の態度が高まるよう学習内容を設定した。

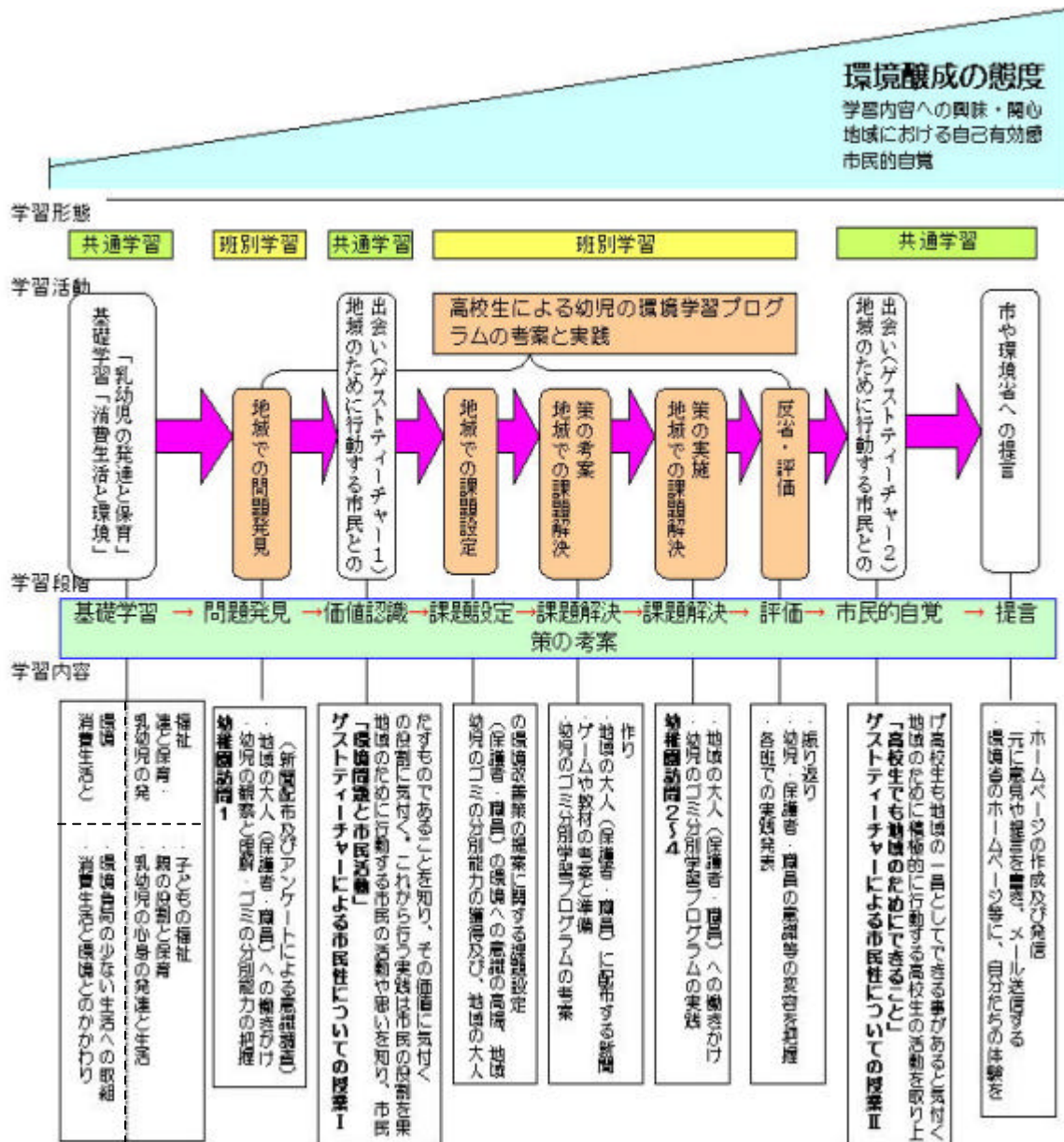


図2 研究の基本構想

### 検証計画

#### 1 検証ための実践

- (1) 題材 地域のために活動しよう! ~ 高校生による幼児のゴミ分別学習プログラムの実践 ~
- (2) ねらい 学習内容への興味・関心を高め、地域における自己有効感と市民的自覚を促し、環境醸成の態度を身に付ける。
- (3) 指導項目 家庭基礎 「消費生活と環境」乳幼児の発達と保育・福祉



- (4)指導時間 20時間(平成15年9月～11月に実践)
- (5)授業実践校 群馬県立桐生高等学校1年4組(理数科) 40名(男子26名 女子14名)
- (6)協力機関及び協力講師  
 保育実習園 桐生市立昭和幼稚園(4～5歳児 18名)  
 ゲストティーチャー1 群馬大学教育学部 家政教育講座助教授 西園 大実氏  
 ゲストティーチャー2 高崎経済大学 地域政策学部1年 白石 真治氏



## 2 検証の観点と方法

見通し	検証の観点	検証の方法
1	シチズンシップ教育の手法を導入した「消費生活と環境」と乳幼児の発達と保育・福祉」の複合題材「高校生による幼児の環境学習プログラム」を設定して、地域における問題解決型学習を行ったことにより、意識的にも学習内容への興味・関心が高まり、学習への取組が積極的になったか。	・学習内容の振り返りシート ・準備時及び実習時の観察 ・意識調査(アンケート)
2	「高校生による幼児の環境学習プログラム」における「幼児のゴミ分別学習プログラム」の取組を通して、幼児、保護者、職員の行動変容を促すことで、「地域において自分にもできることがある」という前向きな気持ちを持ち、地域における自己有効感を高めることができたか。	・事前事後のアンケート調査 ・学習内容の振り返りシート
3	環境のために行動する市民の活動や思いを知ることで、市民の役割を理解したか。市民が環境に働きかけることが地域環境の改善につながることに気付き、環境醸成の価値を認識したか。市民としての自覚を持ち、「生活をよりよくするために環境に働きかけたい」という気持ちを持てたか。	・ワークシート ・事前事後のアンケート調査 ・学習内容の振り返りシート

## 指導経過

学習の流れ	時間	主な学習内容と学習活動	生徒の意識等
基礎学習	消費生活と環境	1 身近な容器から環境負荷を考えよう! ・ペットボトル、缶、瓶、紙パック、環境に優しいのは?(地球温暖化の仕組みと現状) ・グリーンコンシューマーとして行動しよう	・ゴミ問題や環境問題は人ごとではないなと思った。一人一人がジュースなど「もの」を買うときには、ゴミが出ることまで考えて買うことができればいいと思った。環境問題にもう少し関心を持たなくては・。
		2 環境保全の意識づくりを考えよう! ・環境保全が進まない理由 ・環境先進国の環境教育 ・自分たちでもできる環境保全	<p>環境保全の行動を行う上での問題点</p> <p>手間がかかる・面倒 28 時間がかかる 25 お金がかかる 18 方法がわからない 18 自分だけやっても無駄 2 必要性を感じない 1</p>
問題発見	乳幼児の発達	3 乳幼児の発達の特徴を知ろう! ・乳幼児の発達段階と特徴 ・幼児にとっての遊びの意義	・私は幼児はあまり好きではありません。なので幼児に合ったゲームを考えたり、遊んだり上手にできるか不安です。
		4 幼児の観察のポイントを考えよう! ・班編成と幼稚園訪問1の観察事項 ・1回目のリーダー班と新聞班決め	・幼児に環境の話をするので、もっと環境について知らなければならぬと思った。幼児にリサイクルについて教えることは、地域環境のためになると思った。
		5 幼児と触れ合って理解しよう! 幼稚園訪問1 テーマ「仲良くなるう！」 幼児に慣れる(自由遊び等) 6 幼児のゴミの分別能力を調べる(劇等) 地域の大人への働きかけ・意識調査	<p>分別できる子も少しいたけれど、全体的にゴミの分別は少し難しそうでした</p>

学習の流れ	時間	主な学習内容と学習活動	生徒の意識等																									
価値認識 市民との出会い 地域のために行動する	7	<p>市民のもつ力と役割を知ろう！</p> <p>市民性についての授業 「環境問題と市民活動 ～市民活動で法律を変える～」 ・フロンガス規制法ができるまでの経緯 (市民による行政や企業へ提案)</p>	<p>行政や企業ではなく市民にしかできないことは、『提案』することです。」</p> <p>幼稚園での活動は、市民として地域に提案することにつながるんだ</p> 																									
		<p>幼稚園での実践の価値を知ろう！</p> <p>・高校生によるゴミ分別学習プログラムの実践の価値を認識</p>	<p>個人の力はとても大切だと思った。自分たちの活動も地域への『提案』になることが分かった。桐生市民であることを意識しながらこれからの幼稚園での実践をしたい。</p>																									
課題設定	8	<p>幼稚園訪問1の振り返り</p> <p>観察結果から幼児の特性を確認 幼児のゴミの分別能力と、保護者・職員 の環境への意識を把握 課題の設定</p>	<p>ゴミを分別する理由(保護者 職員)</p>  <p>環境のためだから 11%</p> <p>地域で決められているから 52%</p> <p>習慣になっているから 37%</p>																									
		<p>生徒が設定した課題 幼児のゴミの分別能力を高める。 地域の大人の環境への意識の高揚 幼児期からの環境学習を地域に提案</p>	<p>地域の大人(保護者・職員)も「環境のために分別」する人は多くない事が分かった。</p>																									
課題解決策の考案	9	<p>高校生による幼児のゴミ分別学習プログラム」を考えよう！</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回</th> <th>テーマ</th> <th>目標</th> <th>ゲーム</th> <th>形態</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>問 発 見 仲良くなるう!</td> <td>高校生と親しくなる。 最初のゴミ分別に挑戦する。</td> <td>自由遊び 分別ゲーム</td> <td>全体</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>問 題 ゴミの違いとリ サイクルのしくみ</td> <td>分別するゴミの違いを知る。 リサイクルでゴミが生まれ変わることを知る。</td> <td>班別で教えてか ら30釣りゲーム 紙芝居</td> <td>個別 班別</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>解 決 なぜゴミを分別 するの?</td> <td>不燃ゴミを燃やす害を知る。 リサイクル等の言葉に慣れる ゴミの分別の復習をする。</td> <td>パネル 歌と踊り 旗上げ・しすとり</td> <td>全体 班別</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>評 価 ものを大切に しよう!</td> <td>ものを大切に使うことがゴミの 減量につながることを知る。 ゴミが分別できるようになった かやってみる。</td> <td>劇・鬼ごっこ玉入 れゲーム 最初と同じゴミの 分別ゲーム</td> <td>全体</td> </tr> </tbody> </table>	回	テーマ	目標	ゲーム	形態	1	問 発 見 仲良くなるう!	高校生と親しくなる。 最初のゴミ分別に挑戦する。	自由遊び 分別ゲーム	全体	2	問 題 ゴミの違いとリ サイクルのしくみ	分別するゴミの違いを知る。 リサイクルでゴミが生まれ変わることを知る。	班別で教えてか ら30釣りゲーム 紙芝居	個別 班別	3	解 決 なぜゴミを分別 するの?	不燃ゴミを燃やす害を知る。 リサイクル等の言葉に慣れる ゴミの分別の復習をする。	パネル 歌と踊り 旗上げ・しすとり	全体 班別	4	評 価 ものを大切に しよう!	ものを大切に使うことがゴミの 減量につながることを知る。 ゴミが分別できるようになった かやってみる。	劇・鬼ごっこ玉入 れゲーム 最初と同じゴミの 分別ゲーム	全体
		回	テーマ	目標	ゲーム	形態																						
		1	問 発 見 仲良くなるう!	高校生と親しくなる。 最初のゴミ分別に挑戦する。	自由遊び 分別ゲーム	全体																						
		2	問 題 ゴミの違いとリ サイクルのしくみ	分別するゴミの違いを知る。 リサイクルでゴミが生まれ変わることを知る。	班別で教えてか ら30釣りゲーム 紙芝居	個別 班別																						
3	解 決 なぜゴミを分別 するの?	不燃ゴミを燃やす害を知る。 リサイクル等の言葉に慣れる ゴミの分別の復習をする。	パネル 歌と踊り 旗上げ・しすとり	全体 班別																								
4	評 価 ものを大切に しよう!	ものを大切に使うことがゴミの 減量につながることを知る。 ゴミが分別できるようになった かやってみる。	劇・鬼ごっこ玉入 れゲーム 最初と同じゴミの 分別ゲーム	全体																								
<p>幼児にゴミの分別を教える学習プログラムの作成</p> <p>僕達の班は、釣りが好きな人がいたので、ゴミ釣りゲームを考案した。小グループで行うため、園児が理解度を調べる二度目の訪問で行うことになった。</p>																												
<p>高校生による幼児のゴミ分別学習プログラム」を実践しよう！</p>																												
<p>幼稚園訪問2 テーマ「ゴミの違いとリサイクルの仕組み」 仲良くなる(自由遊び) ゴミの違いを教える(小グループ) 幼児の理解度を確認(釣りゲーム) リサイクルの仕組み(紙芝居) 地域の大人(保護者・職員)への意識の高揚(自作の新聞配布)</p>	 <p>これがリサイクルできるゴミだよ。新しく新聞紙になるんだよ。</p>																											
課題解決	10		<p>個別に教えたことを釣りゲームで確認すると、よくできていてびっくりした。子ども達の頭はスポンジみたいで何でも吸収していてすごいと感じた。そう考えると僕たちの活動は意味のあることだと思う。</p>																									
	11																											
	12	<p>幼稚園訪問2の振り返り 幼児とのかかわり方やゲームについての振り返り(ビデオの視聴) ・気付いたことの発表 ・ゲームや教材の準備</p>	<p>子どもと触れ合うみんなの姿をみると、とてもよい表情をしていて、環境学習のほかにも様々な収穫があることに気付いた。机の上だけでなく、外に出ることで徐々に視野が広がっているのを感じている。</p>																									

学習の流れ	時間	主な学習内容と学習活動	生徒の意識等
課題解決 高校生による幼児の環境学習プログラム	地域での課題解決 幼稚園訪問3・4	13 幼稚園訪問3 テーマ「なぜ分別するの？」 仲良くなる(自由遊び) ゴミを燃やすことの害(パネル) 分別の復習(傾上げ・いすとりゲーム) 地域の大人(保護者・職員)への意識の高揚(自作の新聞配布)	 
		15 幼稚園訪問4 テーマ「ものを大切にしよう！」 仲良くなる(自由遊び) ものを大切にすることを育てる(創作劇「ものを大切にしよう」) ゴミの分別の復習(鬼ごっこ玉入れ) ゴミの分別能力の確認(アンパンマンのゴミ分けゲーム)	 
		16 地域の大人(保護者・職員)への意識の高揚(自作の新聞配布) 地域の大人(保護者・職員)の意識調査(アンケートの配布)	最後の幼稚園訪問だったが、今回の園児の分別する姿を見て驚いた。最初とは別人のように正確に分別できていた。僕らの環境を守りたいという思いが届いてうれしい。
		17 実践後の幼児・保護者・職員の変化と自分たちの変化を考えよう！ 各班での実践発表(ホームページの原案作り) 幼児・保護者・職員の意識や行動の変化の考察	  ・保護者・職員のアンケート結果を見て、とてもいい影響を与えたことが分かった。園児も家でゴミについて話すようになったと知り達成感を感じた。自分も日常生活の中でリサイクルを意識するようになったと気付いた。
市民的自覚	ゲストティーチャー2 地域のために行動する	18 地域で活躍する高校生に会おう！ 「高校生でも地域のためにできること～高校生の力で実現したチャリティーバザー～」 ・「ぼかぼかマーケット」に高校時代に取り組んだ大学生の活動報告 ・地域ボランティア活動の紹介	 高校生でも協力すれば大きな力になると知った。高校生同士がつながって地域のために活動すれば地域の繋がりも強まると思う。
提言	市や環境省への提言	19 実践をもとに、行政に提言しよう！ ・実践で感じたことから、生活環境をよりよくするためにあったらいいと思うサービスや制度等を考える。 市や環境省への提言(メールの送付等) ・ホームページの原案作成(情報発信は後日行う)	 ・この活動を通して、人任せではなく自分で考えられるようになった。以前より市民としての自分を意識し、自分達の生活環境をより良いものになりたいと考えようになった。
まとめ	自己の意識や態度の変容	20 自分の意識や態度の変化を考えよう！ ・ポートフォリオ用紙を見直しながら己の変容を振り返る。	生徒が作成したホームページ(一部抜粋)

## 結果と考察

1 シチズンシップ教育の手法を導入した「消費生活と環境」と「乳幼児の発達と保育・福祉」の複合題材「高校生による幼児の環境学習プログラム」を設定して、地域における問題解決型学習を行ったことで、学習内容への興味・関心が高められたか。

生徒の地域環境への関心は、学習段階の進行に伴って高まっている<sup>(図3)</sup>。中でも「高校生による幼児の環境学習プログラム」の実施の前後では急激な変化が見られる。この関心の急激な高まりは、「幼児に教える側に立ってゴミについて初めて詳しく学ぶことができた」「子どもが好きになった」という感想の多いことから、シチズンシップ教育の手法を取り入れて、複合題材化したことによる効果だと考えられる。

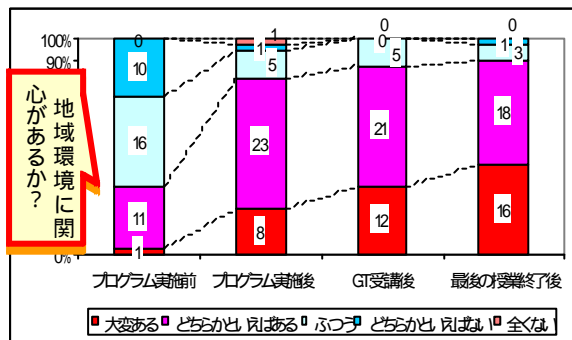


図3 地域環境への関心の推移

### 生徒のプログラム実施後の感想から

僕も幼児に教えているうちに、自然に環境についての興味・関心がわき、これからはもっと環境について考えなければならないと思うようになりました。環境教育をするのに一番効果的なのは幼児にすること。幼児が環境問題に興味・関心を持てば、周りの親や先生も影響されるに違いない。

2 「高校生による幼児の環境学習プログラム」における「幼児のゴミ分別学習プログラム」の取組を通して、幼児、保護者、職員の行動変容を促すことにより、生徒の地域における自己有効感が高められたか。

プログラムの最後にゴミの分別能力をゲームで確認したところ、ほとんどの幼児ができていた。また、日常生活でも周囲の人にゴミの捨て方を注意するようになった等が報告さ

れた。さらに保護者と職員の8割強が、自身も行動や意識に変化があったと回答したことから、本プログラムで幼児・保護者・職員の行動変容が促されたと分かった。

この結果を読み取った生徒は、地域のために行動する市民(G.T.)の講義を通し、地域における自己有効感を高めていった<sup>(図4)</sup>。これはプログラムの成果を実感した生徒が、「自分も地域に貢献できる」という自信を得たためと考えられる。さらに、地域のために活動する市民に出会うことで、活動で得た自信が地域貢献の意欲につながったと言えよう。

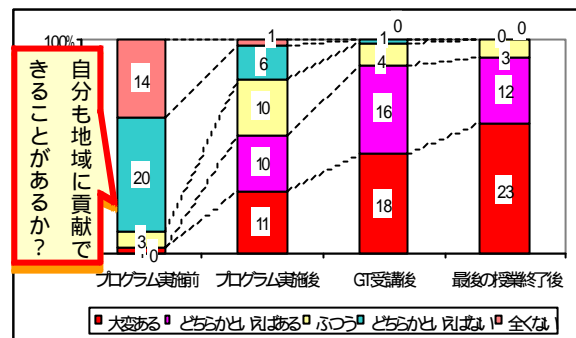


図4 地域のためにできることがあるという気持ちの推移

自分でも驚いたのは、嫌だと思っていた幼稚園での実習の後から考えが前向きに変わった点です。何かを実行するとそこから考えが変わっていくものだと思います。最後の方は感動でき、自分たちの行動の大切さを実感できました。

3 環境のために行動する市民の活動や思いを知ることにより、市民の役割に気付き、環境醸成の価値認識や市民的自覚が促されたか。

環境醸成の活動の一つである「ボランティア活動等の市民活動」への興味・関心は、ゲストティーチャーの授業の受講後に著しい高まりを見せた<sup>(図5)</sup>。このことから環境醸成に興味・関心を持ち、その価値について肯定的な認識が得られたことが分かる。

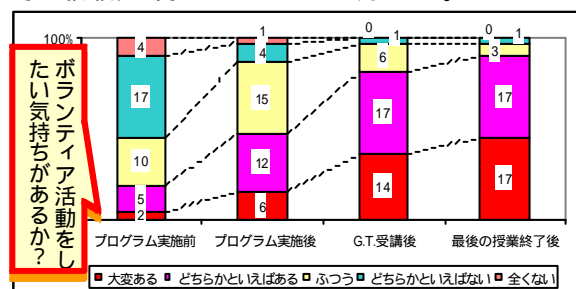


図5 ボランティア活動等の市民活動をしたい気持ちの推移

## 研究の成果と今後の課題

同時に市民的自覚についても変化が見られた(図6)。「企業や行政ができない市民の役割や、大人にはできない高校生の役割があることを知った」「高校生同士がつながることが、地域のつながりを強めることになる」という感想からも、地域のために行動する市民との出会いは、市民としての役割に気付かせ、市民的自覚の高まりを促したことが分かった。

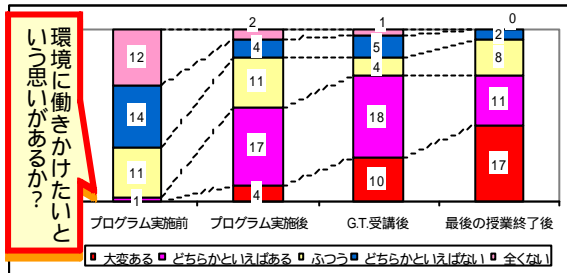


図6 市民として環境に働きかけたい気持ちの推移

ゲストティーチャーの授業の後では、市民としての自覚が持てるようになっていました。私たちと同じ高校生(一般市民)にもできることや、高校生(一般市民)にしかできないことがあると分かりました。市民としての活動についているいる知りたいです。  
・町の広報などほとんど目を通していなかったのに、最近では地域の活動に興味をわき、広報等もよく見るようになった。地域の一員としての自覚も出てきた。

また多くの生徒が、将来的に生活環境において問題が生じた場合「市民の役割を果たし、行政にも提案するなどの働きかけを行う」と答えていた(図7)。

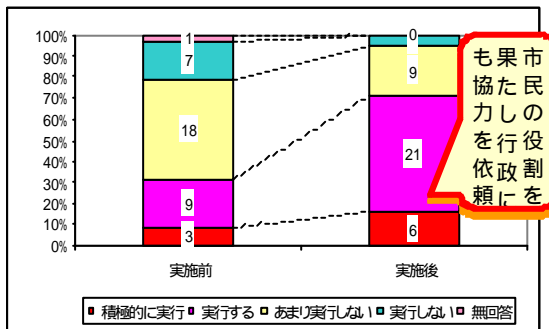


図7 生活環境の問題解決に主体的に取り組むか

このことは、生徒の環境醸成への意欲が具体的な行動に結びつくものであることを示唆している。実際に「よりよい商品やサービスを求める」「粗悪な商品を見逃さない」など責任を持った消費行動を心がける生徒が多く見られるようになり、見通し1~3の実践を通して主体的に環境に働きかける環境醸成の態度が培われたことがわかった。

開発した「高校生による幼児の環境学習プログラム」の学習段階の進行に伴い、生徒の意識は前向きに変容し環境醸成の態度につながった。この大きな理由は、「高校生による幼児の環境学習プログラム」がシチズンシップ教育の手法を導入した地域における問題解決型学習であることにある。生徒は幼児を中心に地域とかかわりながら、様々な不安や葛藤の中で工夫や努力を行い、自分たちで考案したゴミの分別学習プログラムの目標達成と共に感動を得ることができた。この感動が地域における自己有効感を高め、地域の一員としての自覚に結び付いたと言える。さらに地域のために行動する市民と出会うことで、その役割を共感と共に学ぶことができた。同時に他者と共に生きる生活観が育まれ、消費行動を社会的に捉える視点が育ったと考える。その結果、家庭科の目指す消費者の権利と責任への意識を高め、知識を生かす実践的な態度が培われた。

本研究を通して、家庭科教育における実践力を高める指導を充実するには「シチズンシップ教育」のような市民性を育む指導の導入が必要だと感じた。個人の自由と共に自己責任が問われる時代の中、自分と同じように他者の幸福を追求する姿勢を培うことが重要であると考え。市民性を育むことは、高等学校家庭科が目標とする、共に生きる存在としての自己に気付き、主体的によりよい地域や家庭の生活を創造する態度を培う事につながるのではないだろうか。

今後の課題としては、生徒が主体的に調べた学習内容を発表する場を設けるなど、知識面での指導の充実をはかりたい。

## 参考文献

http://www.uknow.or.jp/be\_e/s\_topics/spotlight/young/05.htm (UK NOW Citizenship)  
西岡 加名恵著 「教科と総合に活かすポートフォリオ評価法」 図書文化(2003)  
指導者 指導主事 伏見 和枝